

かべ新聞

第 154 号

2023 年
7 月 25 日

J R 東海労働組合
新幹線地方本部
東京車両所分会

第 17 回分会定期大会開催！

メインスローガン
JR東海労の未来を切り拓くため
職場からの闘いを基礎に組織一丸となり
今を全力で闘おう！

7 月 22 日、品川区中小企業センターにおいて第 17 回分会定期大会を開催しました。

大会は、佐藤副委員長の司会で開会しました。議長に齊藤さん（仕業）を選出して議事が進行されました。



板倉分会長挨拶は「①本部・地本も新たな役員体制でスタートした。分会も来年の大会までに今後の組織体制について論議していく。②職場の仕事も変わってきているが、今後はさらに画像データを活用した検査体制に変わろうとしているが、安全を守るのは人間で

あり、われわれ労働者だ。③職場は、社員同士がギスギスしている。年代別に固まって、他とは交流が持たれていないのではないか。労働組合が、しっかり機能していないから信頼関係も生まれにくい。④私たち JR 東海労は、心をひとつにして闘ってきた自負と歴史があるから絆がある。今後も、裁判、職場諸問題解決に向け一丸となり奮闘しよう。」との挨拶がありました。

来賓として、本部より本橋書記長、地本より伊藤委員長挨拶を受けました。

質疑では組合員から「・地本も伊藤委員長、森下書記長の体制でスタートした。地本をしっかり支えていこう。・仕業の要員が足りない、適正に配置されていない。何ヶ月も仕業検査から離れている分析センターの社員まで使っている。安全上問題だ。・社員間の一体感が無くなってきているように感じる。・チェックシートが多すぎる。作業 10 分、チェックシート 20 分という感じだ。・タブレットの音声認識がされず疲れる。若手も「こりゃダメだ！」と言っている。・裁判闘争も頑張ろう。・出向先会社の労働条件が悪すぎる。出向先会社との団交で労働時間も月 160 時間に抑えている。素晴らしい闘いだ、感謝する。・出向先会社も要員不足でプロパーの人は、過酷な勤務で働いている。・今年も出向先会社との団体交渉を申し入れる。・SMT では、今年に入って 1 日も年休が入らなかった。プロパーの社員は、頭にきて労基署に相談に行ったようだ。・管理者に「年休が入らない、時季変更の日を指定して欲しい」と申し出た。声をあげたら年休が入った。理不尽な事には声をあげよう。」などの発言が出されました。

問題解決と組織拡大に向け、「今」を全力で闘おう！

山口書記長の総括答弁では「・仕業の要員不足、タブレットの問題については、他労組の仲間にも訴え声をあげよう。・出向先会社の問題は、地本プライム会議と連携し取り組む。・社員間のギスギス、一体感が無い職場はヒューマンエラーや労災に繋がる。積極的に声を掛けていこう。・SMTでは、年休が入らない。年休は労働者の権利である。プロパーの仲間と共に『おかしい！』と声を出そう」の総括答弁を行いました。

スローガン（案）、予算（案）、運動方針（案）、役員改選を満場一致で承認後、大会宣言を採択し、板倉分会長の団結ガンバローで大会を終了しました。

＊新執行委員に土屋浩一さん（メンテックカンザイ出向）が就任。会計監査員の原謙さんが退任され、木藤純宏さん（SMT出向）が新たに就任しました。

- ・委員長：板倉 晋（仕業） ・書記長：山口 了（SEK出向）
- ・副委員長：長浜 保（構内操縦）、佐藤 敏（構内操縦）

<新執行委員>



最先頭で奮闘します。よろしくお願ひします！

松井さん、近藤さんが退任！長い間お疲れさまでした！



東京車両所分会結成時から執行委員として要職を担われ、組織の最先頭で奮闘された、松井輝道さんと近藤透さんが来年の分会大会前に専任社員契約満了となり退職されるため、今大会で執行委員を退任されました。長い間お疲れさまでした。



布施さん、石尾さんの勇退激励会

大会終了後、5月末で専任社員契約満了となられた布施喜一さんと7月末で専任社員契約満了となる石尾光春さんの勇退激励会を盛大に開催しました。

お二人は、54歳原則出向制度でJRからSMT大井夜勤事業所に出向されて専任社員契約満了まで勤務されました。

SMTの過酷な労働条件改善や要員不足のため年休が入らない現実に対して、SMTで働く仲間とも連携し問題解決のために奮闘されました。

JR東海労運動を支え、退職まで共に闘った二人に組合員・OBから多くの感謝の言葉が送られました。

長い間お疲れさまでした。

